

多様な担い手と農福連携

社会福祉法人優輝福祉会

障がい者支援施設ともいきの里施設長 熊原 保



はい、それでは拍手をください、ありがとうございます。全国にいる皆さんも拍手をしてくれていると信じています。パワーポイントにあまりこだわらないでお話しようと思います。

1. 農福連携五つの鍵

私は「多様な担い手と農福連携」とは、「助けられ名人になること」が一つの鍵ではないかと思っています。

二つ目は、まるで施設名「ともいきの里」から取ったわけではないですが、「共に生きていく」という視点が必要ではないかと思っています。三つ目は、「楽しく、面白いことこそ、めδειたい」という発想をベースに持っていないと、農福連携はできないのではないだろうか。少し抽象論すぎたかもしれませんが。

四つ目は、横文字で言います。コレクティブ・インパクト (Collective Impact) です。

私はとある大学で、このテーマで講義をするように言われ、何だろうと思って調べたら、日本語では農協、労働者協同組合の「協」に「働く」という「協働」が近いようです。これも一つの鍵になると思います。テストに出ますよ。

五つ目は、「思いやりのネットワーク」と言っているかもしれません。社会福祉協議会が主催するイベントのテーマだったのですが、社会福祉とは、「思いやり」という言葉に置き換えられるのではないかという気がしております。

2. デイサービスの利用者の寄付

デイサービスセンターに限らず、面会に来る方々、施設に来る方々、地域の方々から野菜や花卉が届くといった形で、農業者の方が多くの寄付をしていることに気がしました。

私は百姓の三男坊ですが、生産物を人にあげることがよくあることだと思っていました。

しかし一番言いたいのは、お金は生きがいになる。農業者は金儲けを忌むのではないのです。やはりお金が入ると生き活きとしてきます。24年前に、デイサービスセンターで金儲けができると提唱したら、大変評判が悪かったです。今は全国各地で取組みが増えていきます。農福連携ができるシステムになってきた、デイサービスセンター等で働いてお金を稼ぐ時代がやってきたという感じです。農福連携が進んだ一つの鍵でもあったような気がしています。

3. 昔取った杵柄は、最高の健康の秘訣

入居者や利用者は元々農業者が多く、野菜が作りたいのです。農業をしていた人の昔取った杵柄は、最高の健康の秘訣なのです。都会の人たちのあいだでベランダ農業が大変喜ばれていますが、それも含めて、元気のもとになると考えていただければよいと思います。

失礼な言い方になりますが、地域の直売所がどんどんダメになってきました。そこで地元の高齢者と一緒に産直市を運営できないかと考え、施設で生産した野菜の販売をはじめました。

4. 耕作断念地の増加

耕作断念地―耕作放棄地ではありません―がどんどん増え、農地法の壁もあり、社会福祉法人が大々的に耕作することが難しくなりました。お国の法律に対し少し刺激的に言った方がいいと思いますが、これらの土地は現実的に増えている、私どもの法人でも農地や山林の寄付を受けても手に負えなくなっているのが現状です。新しいやり方を考えることが課題になります。私もこれ以上言ったら叱られますが、繰り返します。いずれにしても多くの土地がダメになって、少子高齢化と不在地主の増加により、耕作を断念した農地をどうするか。そこで、農

福連携で多様な人たちとの関わり方を変えていくことが必要ではないかと気付いたわけです。

5. トマト栽培施設の廃止物件

トマトのハウス栽培にも取り組みました。行政が第三セクターで実証実験をしていたのですが、うまくいかず撤退したところです。つまり農地だけでなくハウスまで、私が調子に乗って二つ返事で引き受けてしまいました。やがて加工や調理販売などの依頼もくるようになり、豊富な農産物の活用方法なども考え、今のところどうにか続けることができています。先ほどのトマトは「あかまるこ」という糖度の高い品種で、お値段もちょっと高いですよ。おかげで安いトマトではなく、高くても売れるということがわかり、勉強になりました。今では生産しているものの、消費者からいくらか注文しても送られてこないとクレームがきて

いることにしておきます。

6. 地酒とコラボ

私は当年とって59（実年齢は69）。今年（令和6年）の12月9日、障害者の日に70歳の太台に乗ります。

私の同級生が造り酒屋をしていたのですが、耕作断念地で栽培した酒米を活用して「君が好きだよ！」という銘柄の地酒を造りました。

汗をかいた後、家で飲むときはビールではなく日本酒を飲むうじやないかと提唱しました。しかし残念ながらコロナ禍で調子が悪くなって、今はこのお酒はありません。

7. 林福連携への広がり

林福連携にも取り組んでいます。薪だけではなく、面白いことになりました。正式には林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金^(*)

が3年間で500万円つきました。

地元の小学校と、団地住民の皆さんと、社会福祉法人の私たちと、地域の青年部などと一緒に、木育^{もくいく}といってよいかもしれない取り組みです。団地の周辺の山に子どもたちがやってくるような営みが始まると、最高の事例になるのではないかと気がしております。はじめに協働という言葉を使いましたが、農福連携も色々な方と手を組み、助けられ名人になるということになってきます。

(*) 地域住民等による森林の保全管理活動等の取組みを、市町村等の協力を得て支援する事業。
概要は林野庁ウェブサイト
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/iamentek.html>

8. 利用者ではなく「社員」と呼ぶ

私たちは利用者を「社員」と呼んでいます。就労継続支援A型・B型、就労移行支援の利用者、場合によっては高齢者も含みます。

特に工賃等をいただいている方々に対し、利用者ではなく社員という言葉を使っているのが鍵、ミソだとうご理解ください。

9. 共生型福祉の拡大へ

共生型福祉の拡大とは文字どおり、多くの方々と一緒になってやっていくことが必要という意味です。私たちの取組みについては、藻谷浩介さんとNHKが組んだ『里山資本主義』^(※2)という40万部出た本や、『里山人間主義の出番です』^(※3)という本に書かれています。

今日全国各地でこのセミナーを受けておられる方々は、私に直接電話をされなくても、読んでいるだけでもよくわかります。

(※2) 藻谷浩介・NHK広島取材班「里山資本主義…日本経済は「安心の原理」で動く」角川書店・2013年7月

(※3) 指田志恵子「里山人間主義の出番です」福祉施設がポンプ役のまちづくり」あけび書房・2015年10月

の前、藻谷浩介さんが「JRを活かしていくためには、上（交通機関）の管理は民間が、下（路盤部分）は道路の維持に利用される揮発油税（ガソリン税）を鉄道に回して維持管理すればよい」とお話ししていました。^(※5)

私はこれまで路線廃止についてあまり興味がなかったのですが、新しい高齢者福祉の事業展開に向けて存続運動をしていきたい。農福連携と同じように、地元の色々な方々とやって行けるようになってくればよいと思っています。

今日この場に出させていただきましたして、まさしく多様な方々と手を組むことができる。私にとっての出発になればいいと思います。ちょっと早いですが、これが熊原節ということになっていますので、終わらせていただきます。ありがとうございました。

(※4) 農村RMOの取組み状況については、「令和5年度農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業農村RMOモデル形成支援実施状況」（令和6年1月）等をご参照。

10. 地域経済の循環を求めて

農業も含めたビジネスの方々と社会福祉法人はどう手を組むか。ポイントは第六次産業化の取組み、高齢者の生きがい、そして農村RMO（農村型地域運営組織：Region Management Organization）です。

今日農林水産省の方は来られていますか？

私は福祉と農業、農用地保全を含めたものの営みは、農村RMOがもっと普及するならば、農地の耕作断念地を含めてよいものになってくるのではないかという気がしています。私の地元でも取り組み始めている団体がありますが、残念ながら私はまだ直接関わっていません。

これから先、地域経済の循環を求めて行くためには、逆転の発想で、できていないからこそよいものができると思っています。

私の地元にはJR芸備線があります。ついこ

農林水産省ウェブサイト

<https://www.maff.go.jp/nousin/rmo/attach/pdf/jrei-1.pdf>

(※5)

藻谷浩介氏の主張については、中国放送RCC NEWS DIG「JR芸備線」鉄道は赤字なら廃止？「里山資本主義」藻谷浩介さん芸備線の未来を語る「ガソリン税を鉄道に回して上下分離方式で」等をご参照。

<https://www.youtube.com/watch?v=DZBUeHOKNM>